

文化講演会講師ケビン・ジャクソンさんにインタビュー 地元習志野市と共に歩む私のアメフト人生

聞き手 エイドリアン・モリスさん(習志野市外国語指導助手)

講演終了後、講師のケビン・ジャクソンさんに、姉妹都市タスカルーサから習志野市に派遣されているALT（外国語指導助手）のエイドリアン・モリスさんが、ジャクソンさん

自身についてインタビューをしてくださいました。モリスさんは、フットボールの強豪アラバマ大学の出身です。アメリカ人同士の話は母国語で大いに盛り上がりました。

モリス 初めまして。ライスボウル4連覇おめでとうございます。お会いできて光栄です。

ジャクソン ありがとうございます。こちらこそ、どうぞよろしく。

モリス 今日は大変有意義な講演をありがとうございました。講演は日本語でしたが、お上手でびっくりしました。来日前から勉強なさっていたのですか？

ジャクソン はい。私はカリフォルニア出身ですが、大学はハワイ大学で、日本語の勉強はそこで始めました。ハワイには日本人も多く、親友が日本で育ったアメリカ人だったこともあって、自然と日本語に興味を持ちました。

モリス それであんなに上手なのですね。講演の中で、フットボールは人生そのものだ。さまざまな能力・レベルの人々が協力し合って何事かを成し遂げていく、ということをおっしゃっていて、感銘を受けました。日本に初めて来た時、日本社会に適応する上でフットボールはどう助けてくれましたか？

ジャクソン フットボールはチームメイトを信頼しないと成り立たないスポーツです。来日当初は、今ほどしゃべれなかったですし、日本のこともあまり知りませんでした。どこのレストランがおいしいとか、どこそこへはどう行くとか、そういう小さなことから、仕事の打ち合わせなど、より重要なことまで、チームメイトやスタッフにいろいろ教えてもらいました。そうしてだんだんと周りの人と

お互いに家族のように信じあえるようになり、日本での生活や日本でフットボールすることに慣れていったのです。

モリス 一番最初はALTもなさっていたとか？

ジャクソン はい、最初の年ですね。私にとってまったく新しい経験でした。大学を出て初めての仕事でしたから。千葉市の小学校で英語を教え、時にはフットボールを紹介したりもしました。



ケビン・ジャクソンさん

モリス 子供たちにフットボールを教えるのは、にぎやかで大変だったでしょう（笑）。

ジャクソン そうですね（笑）。でも、すごく喜んでくれました。

モリス スポーツは誰をも結びつける可能性を持っていると思います。僕は野球を6、7才からやっていますが、現在ALTとして行っている中学でも子供たちと一緒に野球をしています。

ジャクソン それはいいですね。交流が深まる。私は当時、平日はALT、週末はシーガル

ズの選手として練習、という生活でちょっと大変でした。今はもうALTをしていません。しかし、子供たちにフットボールにもっと親しんでもらうために、シーガルズの一員としてさまざまな活動をしています。現在、習志野市を中心に、船橋市や千葉市も含めて小学校を回り、フラッグフットボールを教えています。これはタックルの代わりに敵の腰回りに差した旗や布を奪う、というフットボールで、入門にはぴったりのようです。それから地元の子供たちを対象に、「出前英語教室」というのも何回か行っています。

モリス どれも子供たちがとても喜びそうですね。ケビンさんのフットボールとの出会いもやはり子供の頃でしょうか？



エイドリアン・モリスさん

ジャクソン 一番のきっかけは1988年のスーパーボウルでした。たぶん小学1年生の頃です。家に両親の友達がたくさん集まって、バーベキューやおしゃべりのビッグパーティを行いました。テレビを囲んで、みんな試合に夢中で、笑顔に歓声。本当に楽しい、いい時間でした。私も一緒にテレビで試合を見て、「これって何！？ 面白そうだな！」と興味を持ったのです。後日、父が「フットボールやるかい？」。私はもちろん、「クール！ イエス！！」と（笑）。

モリス 以来、フットボール一筋ですね。そんなケビンさんが、試合の中で最も大切に感じる瞬間は何ですか？

ジャクソン 小・中・高・大の学生時代ずっと、日本に来て最初の頃は、対戦相手とぶつかり合った瞬間でしたね。

モリス 本当にぶつかり合いが好きなんです

ね（笑）。

ジャクソン はい（笑）。でも今は年が少いって、ちょっと変わりました。クォーターバック・サック、つまりオフェンスの司令塔クォーターバックを、彼がパスをする前にタックルすることですが、これに生きがいを感じています（笑）。クォーターバックをタックルできれば、相手の攻撃を後ろへ下げてしまったり、ボールを落とさせてしまったりとか、とにかく自分たちのチャンスを作ることができますから。

モリス どっちにしても攻撃的ですね（笑）。それにしても、日本に暮らして9年。何がケビンさんを、それほど長く日本に引きとめているのでしょうか？

ジャクソン 元々のプランでは2,3年だったのです。やはりチームが大きな理由ですね、こんなに長くいるようになったのは。シーガルズは、日本におけるアメリカンフットボールの文化を変えて新しい何かを創ろう、とチャレンジしています。そういう仕事の一部を担えることは、とてもエキサイティングです。一種の使命感も感じます。それに、アメリカで大学卒業後にフットボールをプレーするチャンスがなかった時に、シーガルズがプレーするチャンスをくれたのです。そのことにも大変感謝しています。

モリス 2011年の大地震の後も、帰国しませんでしたね。

ジャクソン 私の人生はもうここにあるのです。仕事、日常、私のするすべてのことは日本が本拠地なのです。

モリス ご結婚は？

ジャクソン 2012年に日本の女性と。元オービックシーガルズ・チアリーダーです。去年、息子も生まれました。

モリス うわ〜、おめでとうございます。最後に、習志野市と市民へのメッセージをいただけますか？

ジャクソン まず、いつもシーガルズを応援して下さりありがとうございます。また、フラッグフットボール教室や出前英語教室など

にご協力いただきありがとうございます。そうした活動の他、祭りやイベントへの参加などの活動をこれからもできるだけ広げて、地域と共に歩んでいきたいと思えます。そして何より、オービクシーガールズは勝ち続ける

ことを目指します。我々が勝利する ということは習志野市が勝利する、ということでもあるのですから。

モリス 今日はありがとうございました。



ケビン・ジャクソンさん (右)、
エイドリアン・モリスさん (左)